

＜東京ヴェルディバレーボールチーム指導普及部は、
スポーツ指導場面でのあらゆる暴力行為を否定し、
その根絶に向けて指導・普及活動を推進してゆきます！＞

連日の報道にあるスポーツ場面での暴力行為は、いかなる理由があろうとも許されるものではありません。

全てのスポーツは—たとえそれが世界一を目指すチャンピオンスポーツであろうとも—、楽しむことがその根底にあることは明らかです。

我が国では、勝利を追求する場面において、ともすれば「楽しむこと」は「悪」だと見なされてしまうことがあるようですが、それは明らかに間違った考え方です。世界一になった多くの選手は、そのスポーツを心から楽しみ、努力をしています。その努力の中には、我々では考えられないほどの「厳しさ」が内在していますが、それは彼らが自らに課した「楽しみ」であり、他から強制され、暴力を伴う厳しさではありません。

いまだに多くの指導者がこのことを勘違いしており、厳しさの一端に暴力は含まれ、強くなるためにはそれが許されると考えているようです。

この悪しき指導は、連鎖を生み、悪しき指導者の再生産を繰り返します。早く断ち切らなければなりません。

これまで、様々な場面で多くの指導を見てきましたが、時として、小学生ですら殴られ、言葉の暴力を浴びせられ、泣きながらバレーボールをしている姿を見たことがあります。

そのたびに切なくなりました。なぜ止められなかったのだろうと、後悔の念とともに心から反省しています。

スポーツ指導場面では、直接的な暴力だけでなく、非科学的で不必要なしごきが、あたかもそれが強くなるために必要であるかのごとく見せかけられ、行われていることがあります。言葉の暴力と共にそれらも間違いなく暴力です。

全ての指導者は、スポーツ指導に内在する暴力を自覚し、その時の感情に流されること無く、常に冷静に指導にあたらなくてはならないのです。

全ての指導者は、自分の思いを、言葉でしっかりと相手に伝えられるように、自らを磨き、鍛えなければならないのです。

選手が精神的に強くたくましくなる方法は、暴力や非科学的なしごきではありません！

全てのプレイヤーが上手になりたいと思っているでしょう。

全てのプレイヤーが強くなりたいと思っているでしょう。

しかし、それは非科学的な暴力まがいの指導を受け入れることとは違います。

指導者は日々開発される、科学的で論理的な指導方法を学ばなければなりません。

指導者は「コーチ(coach)」と呼ばれます。コーチ(coach)とは、もともと馬車のことであり、転じて指導者の意味で用いられることが一般的になったのです。後者の意味は、指導を受ける者を運ぶ道具として指導者を見立てたところから用いられるようになったものだそうです。(参考文献：公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ・公益財団法人日本体育協会)

つまりコーチは馬車であり、強いて言うなら鞭打たれるとすればコーチなのです！もちろん、乗客が馬車馬を鞭打つことはありません。

でも、指導者こそが鞭打たれる覚悟で、自分を磨かなければ、彼らを目的地まで乗せていくことは出来ないのです。

にもかかわらず、乗客が悪いかのごとく彼らを鞭打つ。それでは乗客は目的地に到達するどころか、降りてしまいます。

そんな指導者のどれほど多いことか。
悲しい事実です。

東京ヴェルディバレーボールチームでは、設立以来、数多くのバレーボール教室を開催し、多くの小学生、中学生、高校生、大学生、一般の方やママさんとバレーボールをしてきました。それはこれからも続きます。

スポーツを心から好きでいて欲しい。

強くなるために自ら努力し研鑽を続けるスポーツマンになって欲しい。

そう思っています。

そして何よりもバレーボールを楽しんで欲しいと思います。

我々のチームメンバーも日々練習しています。

互いに厳しさを求め、仕事が終わったあとに集まり、互いに鞭打って成長を目指しています。

練習場所に笑顔はありますが、怒号や暴力はかけられません。

やらされて練習している者は一人もいません。

それぞれの情熱が我々の原動力です！

今後、東京ヴェルディバレーボールチームでは、これまで以上に、より多くの指導者の皆さんとも交流し、楽しく、科学的で論理的な指導を通して、あらゆるスポーツ指導の中から暴力行為を根絶すべく、活動을続けて参ります。